

## 「知的財産推進計画 2022 進捗状況」について

委員 福井 健策

本日の構想委員会は先約の関係で伺えない可能性が高いため、「知的財産推進計画 2022 進捗状況」について若干の意見を述べさせていただきます。

**p25 以下「簡素で一元的な権利処理の実現」について：**

EU14 ヶ国などで進む CLEE（拡大的效果を持った権利集中許諾）と軌を一にする、情報・知財立国の重要なインフラです。各分野の権利情報データベースの充実、その ID の相互紐づけなど効果的なネットワーク化と、十分な公的支援が求められます。

併せて、膨大な過去の作品、中でも既に市場で流通していない大部分の作品について、そこに機械的に「禁無断複製」などの印刷が過去にあっただけで制度の対象外にするといった、制度が意味を喪失しかねない導入が行われないう、大きく育てて行ける基本設計が重要であろうと思います。

**p27 以下「メタバース上の法的課題の検討」について：**

官民連携会議の一分科会長として議論に加わっています。現実には起きている、また起きうる課題に対して現場と並走して支援できる、ソフトロー整備と、最低限の法改正のバランスが重要であると感じます。

この関連で、コンテンツ生成系 AI の急速な進化と、その知的財産権について世界的にも議論が高まっています。わが国は 2015 年から知財戦略本部の 2 つの委員会で世界に先駆けて AI 知的財産権の議論を整理しましたが、その後、政府における現状把握と議論にやや空白が生じたように思います。この点でも、現場と並走した現状把握や課題支援が必要であるように思います。

**p30 「インターネット上の海賊版対策」について：**

現状は資料記載の通りです。出版界・IT 界の協力により、検索サイトの対応については昨年大きなブレイクスルーがありました。また、海賊版の配信能力を 100 倍にも増大させつつ配信停止に応じないとされる特定 CDN について、現在国内で裁判が進行中です。

一方、身元特定後の海外摘発の遅さ、海賊版によるドメイン変更（ホッピング）の高速化という新たな課題について、政府・民間による海外捜査当局、ドメイン管理組織（ICANN）などへの働きかけが続いています。海外での普及啓発も含めた国際包囲網に向けて、引き続き努力が必要です。

**p33 以下「クールジャパンの再起動」について：**

マンガ・アニメ・ゲームなど文化コンテンツや、日本の食文化の海外人気は確かなものですが、現場の現実の悩みをサポートする視点が重要であろうと思います。

コンテンツ分野について言えば、クリエイターやスタッフの子育て支援・失業対策などの働く環境の整備、海外との交渉・契約など専門人材の支援、現場が頭を悩ます海賊版の対策といった、地道な支援こそが王道であるように感じます。